

南仏治安情報（12月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

（1）コルシカ島オートコルス県内発生、独立デモ後の暴動事案

3日、コルテで独立派民族運動による400名規模のデモが実施された。同デモ終了後に約100名が石や火炎瓶を投げるなどして憲兵隊と激しく渡り合ったが、負傷者はなかった。

（2）ユダヤ博物館でのテロ事件：被疑者隠匿協力者の検挙

5月にベルギーのユダヤ博物館で入場者4名を殺害し、その後マルセイユで逮捕されたメフディ・ネムーシュに対する補充捜査の結果、同人がマルセイユで仲間にかくまれる予定であったことが判明し、これを受け9日、同人の仲間である男女5名が逮捕された。

男の内2名はネムーシュがサロン・ド・プロヴァンスの刑務所に服役していた頃親密になり、特にうち1名とは堅い友情で結ばれたという。ネムーシュが過激化したのはその後トゥーロンの監獄に収容されていた2011年3月から翌年12月までの間であり、当時の刑務官らが同人の教化活動が度を超していると治安内務総局に報告した経緯がある。

（3）ドラギニャン発生、「FLNP」落書き事件（被疑者の検挙）

9日、街の複数箇所に「FLNP」（プロヴァンス民族解放戦線）の文字と爆弾の絵を落書きしていた兄弟（40代と30代）が逮捕された。FLNPは2013年3月と2014年1月に手製爆弾による爆破事件を起こしているが、組織実態が見えず（実在しない可能性あり）、また犯行手口が拙いことからFLNC（コルシカ民族解放戦線）を模した愉快犯ではないかという見方もされている。本件逮捕を受け、今回の落書き犯と過去の爆破事件の関連性についての捜査が続けられている。

（4）エロー県リュネルにおける、ジハーディスト問題

10月に村の若者4名がジハーディストとしてシリア入りし同軍の爆撃により死亡した事件（計15名程の若者がシリア入りしている）につき、リュネル村長が国に対し早急な対策を求め、村のイスラム代表に対し「シリア渡航を弾劾するよう」要請した。これに対し同村の「イスラム信者連合」代表は、「これを弾劾しないからといって若者過激化の責任はモスクにはない。全ては神の思し召しのままであり、彼らの意図が良きものであれば神は彼らを天国に迎える」と発言し、ジハード容認とも取れる内容であったことから物議を醸した。

（5）トゥールーズ及びタルヌ県内における、ジハーディスト送り込み組織の検挙

15日、トゥールーズ及びタルヌ県内でシリアへのジハーディスト送り込み網と看做される組織が検挙された。フランスでは、2014年に入りジハードに参戦したいと望む者の数が前年比1.8倍の約1200人、死亡者60人、帰仏者185人となっている。

（6）コルシカ島オートコルス県内発生、デモ後の暴動（被疑者らの尋問実施）

2014年1月にコルテで起こった民族主義運動のデモ終了後に郡庁の警備に当たっていた保安機動隊員と憲兵隊員が投石・火炎瓶・火器・銃で襲われ負傷した事件に

関し、16日、当局は「独立青年」、「自由コルシカ」、「コルシカ囚人支援協会」の活動家男女5名を尋問した。

(7) マリニャヌ発生、当初テロ準備行為と目された事件の求刑

18日、2013年3月に逮捕された22歳の男他2名を被告とする裁判が行われた。被告宅から銃器や爆破物製造可能な大量の化学薬品が押収される一方で、被告らは「目立ちたかった」と釈明するのみでイスラム過激派に関する知識も繋がりもなかった。検察側は被告らを「ジハード募集に適した者（ジハーディスト予備軍）」と判断し、執行猶予付きの懲役2～6年を求刑した。

(8) アルジェリア発生、ニース出身男性殺害事件：軍による犯行グループの殺害

アルジェリア軍は22日、9月に同国内ニース出身男性を誘拐・殺害したイスラム過激派「カリファの兵士達」の首領及びその部下2名を追跡の上殺害したと発表した。

(9) コルシカ島発生、別荘等を狙った爆破事件(3件)

27日から28日に掛けて、コルス・デュ・シュッド県ゾンザで本土居住所有者2名の別荘2軒が爆破対象となったが、装置が脆弱であったため軽微の被害に終わった。犯行声明はなかった。31日にはオート・コルス県ヴェスカヴァートで建築終了直前の家屋が爆破された。この事件についても犯行声明はなかった。

● 殺人（邦人被害なし）

(1) コルシカ島オート・コルス県内発生、ドライバーを狙った殺人未遂事件

11日夜、バステリア南方の町ビグーリアを車で走行していた男性が、狩猟用散弾銃による銃撃を受けた。この襲撃による怪我はなく、車も走行可能だったことから、男性は現場を離脱し近くの憲兵隊に駆け込むことで九死に一生を得た。

(2) エクサン・プロヴァンス発生、白昼の刺殺事件

18日昼間、エクス裁判所で審問を終えた47歳男性が、青空駐車場で何者かに刃物で刺される事件が発生した。救急隊が駆け付け現場で救命措置が執られたが、男性は程なく死亡した。

● 強盗（邦人被害なし）

(1) ガルダンヌ発生、ファストフード店を狙った強盗事件

14日の昼過ぎ、マクドナルド店内に覆面姿の銃を持った男3名が押し入り、店員に売上金を渡すよう脅しつけた。店員がレジ内にあった僅かばかりの現金を差し出すと、犯人らは急ぎ逃走した。事件発生当時は日曜日の昼食時ということもあり、大勢の客が店内で飲食中だったが幸い怪我人は出なかった。

(2) BDR県 Venelles 発生、道路封鎖によるカージャック

21日夜、エクスにあるレストランでの食事を終え車で家路についていた夫婦の車が、道路封鎖強盗犯らによって強奪された。犯人らは銃で夫婦を脅し付け車から降りるよう指示し、代わりに車に乗り込むと何処かへ逃走した。夫婦に怪我はなかったが、精神的ショックを与えられた模様。

● 傷害（邦人被害なし）

（１）アヴィニョン発生、銃撃戦による重傷傷害事件

14日夜、モンクラール地区で銃撃戦が起き、これにより2名が重傷を負った。負傷者は病院に緊急搬送され、怪我の回復を待つ司法警察が本件事情を聴取する予定である。

（２）マルセイユ発生、通行人を狙った狙撃事件

昨年7月から、マルセイユ市内各地で通行人を無作為に小型自動小銃で狙撃する事件が散発しているところ、12日にはとうとう深刻な被害が出てしまった。今回の発生場所は15区デズィレ・クラリー通りで、歩行中の44歳男性が銃撃により軽傷を負い、その妻30歳が片目を撃ち抜かれ失明する被害を負った。

● 薬物関連

（１）カンヌにおける、麻薬組織の一斉取締り

9日朝方、憲兵隊100名ほどがフライェール地区内のシテ等を包囲し、薬物の捜索を開始した。その結果、麻薬の国際取引をする一味約10名が逮捕された。

（２）マルセイユにおける、大麻大量所持犯の職質検挙

26日未明、警察の犯罪抑止部隊が3区内をパトロール中、不審な男が一軒家に入っていくのを発見した。警官らは当初、この男が泥棒である可能性を考慮して動静を監視し、男が家から出てきたところを職務質問した。その結果、男のリュックから大麻樹脂12kg、現金4万ユーロが出てきたため、大麻所持の現行犯として逮捕することとなった。後刻男の出入りしていた家を検索した結果、中から自動式けん銃等を多数発見・押収した。

● その他特異事件（邦人被害なし）

（１）マルセイユにおける、監獄内の秩序低下問題

12月、ボーメット監獄で受刑者が大量の紙幣、携帯電話やマリファナ等の禁制品を誇示する画像をウェブサイト上に投稿し、「これでは警務施設ではなく休暇村ではないか」と物議を醸した。これを受け刑務官組合は、受刑者170人に対して刑務官1名という割合の現状では十分な取締りが不可能だと現状を告発した。

（２）カンヌ発生、武装した男の出現と逮捕

23日早朝、朝市が開催された付近でポンプ式銃2丁と刃物を持った男が現れたが、すぐに警察に逮捕された。男の動機は不明。

（３）マルセイユ発生、動機不明の発砲事件

23日未明、8区にあるプラドトンネルにて保守作業が行われていたところ、BMWに乗った男1名が進禁のバリゲードを突破してトンネル内に飛び込み、車から降りるなり持っていた9ミリ口径銃を発砲した。男はその後再び車に乗り込み、旧港方向に逃走。作業員に怪我はなし。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。